論語

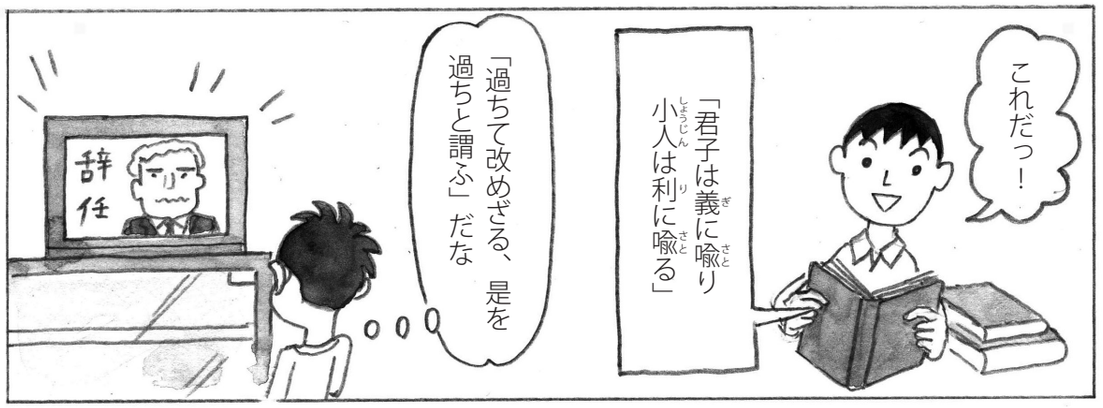
作・画／吉永直子

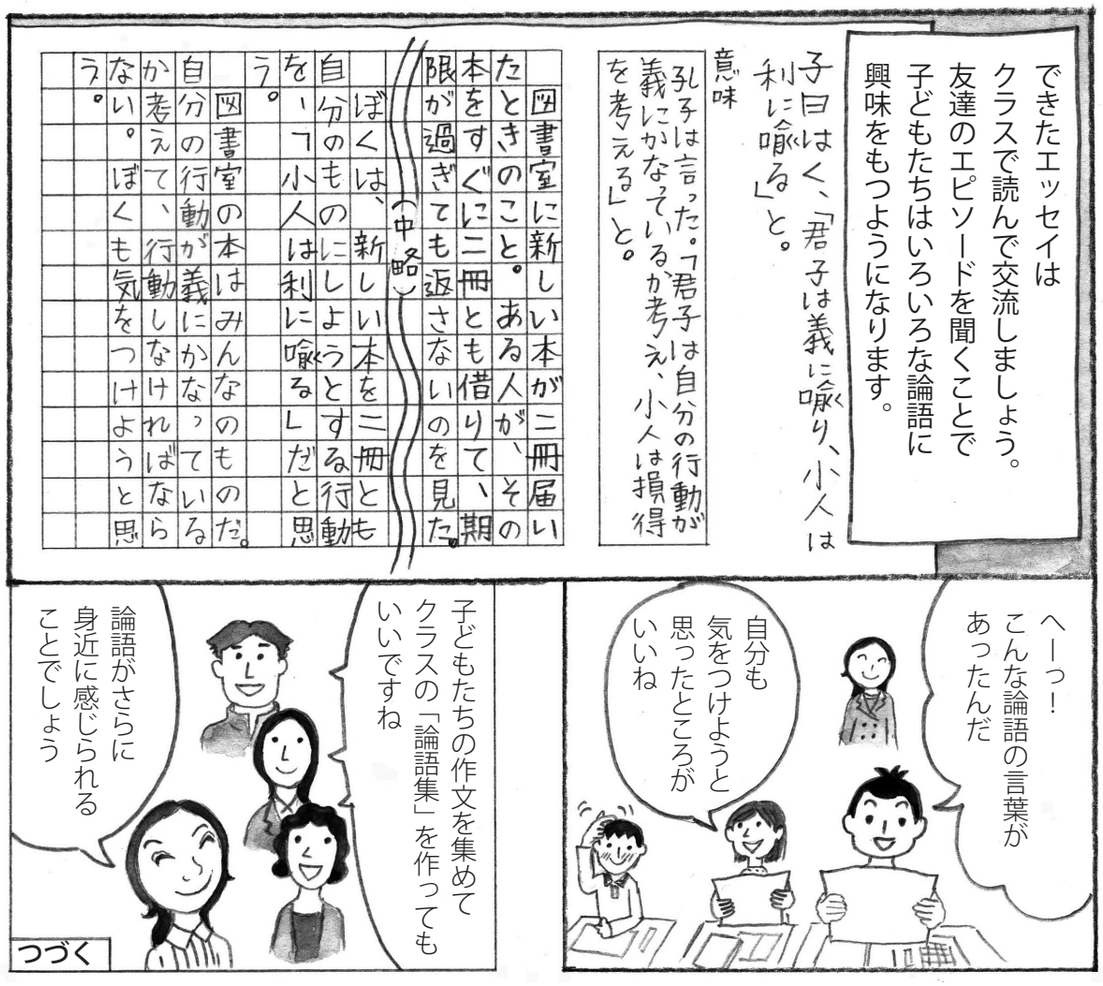
今回は「論語」を学習した後エッセイを書く授業をします
筑波大学附属小学校
青山由紀先生
エッセイ？
学習指導要領では高学年の「書くこと」に「随筆（エッセイ）を書く」という言語活動が入りましたそれと関連づけた授業をご紹介します

まず、教科書を見せずに板書します。「施す」「勿かれ」などの言辞書で調べ、大体の意味をとらえさせます。
子曰はく
「己の欲せざる所は人に施すこと勿かれ」と。
されたくない ほしがらない
恵む あたえる
してはならない
「子」は孔子のことです孔子は昔の中国のえらい先生なんだよ
子曰はく、
されたくない
教科書を開いて現代語訳を読み、意味を確かめます。
こと勿かれ」と。
「自分が人からされたくないと思うことを、他人に対してしてはならない」
こういうことを言われたことはあるかな？
これってだれかの「教え」みたいだね
神様の教え？
キリストじゃない？

妹をからかったらお母さんに「同じことをされたら嫌でしょ」って怒られた
ぼくも弟のおもちゃをかくしたときに言われた
「過ちをおかしてそれを改めないのが本当の過ちというものだ」
思いあたることがある人はいるかな？
子曰はく、「過ちて改めざる是を過ちと謂ふ。」と。
じゃ、これはどうかな
改めない
宿題を忘れて注意されたのに次の日もまた忘れたんだよね
思いあたることがたくさんある……
君たちは何年生まれだっけ？
2000年！
論語は今から約二五〇〇年前、紀元前にまとめられたんだよ
大昔の人も同じことを言われていたんだね
そして、音読をした後エッセイを書く活動に入ります。

まず、エッセイが
どのような文章なのか
子どもたちに説明します。
〈論語エッセイの書き方〉
1.具体的なエピソードが
思いうかぶ「論語」を見つける
2.構成
三部構成
はじめ・中・おわり
エピソード
自分の経験・
身の回りのこと
ニュースで見たこと
など
論語とのかかわり
しめくくり
主張
場合によっては
教師が書いた
エッセイを見せても
よいでしょう。
六百字程度で
まとめよう
論語には
教科書に載って
いるものの他にも
いろいろな教えが
あるから
図書館
などで
調べてみてね
論語探しとエッセイを
長期休みの宿題に
するのもいいでしょう
故きを温めて
新しきを知る
……か
お母さん
おじいちゃん
知っている論語
ある？
「学びて
時に
これを習ふ」
「四十にして惑わず
五十にして天命を知る
六十にして耳順う」


これだっ！
「君子は義に喩り
小人は利に喩る」
辞任
「過ちて改めざる、是を
過ちと謂ふ」だな


できたエッセイは
クラスで読んで交流しましょう。
友達のエピソードを聞くことで
子どもたちはいろいろな論語に
興味をもつようになります。
子曰はく、「君子は義に喩り、小人は
利に喩る」と。
意味
孔子は言った。「君子は自分の行動が
義にかなっているか考え、小人は損得
を考える」と。
図書室に新しい本が二冊届いたときのこと。ある人が、その本をすぐに二冊とも借りていく期限が過ぎても返さないのを見た。
（中略）
ぼくは、自分のものを「小人」だと思う。
図書室の本はみんなのものだ。自分の行動が義にかなっているか考えて、行動しなければならないぼくも気をつけようと思う。
へーっ！
こんな論語の言葉が
あったんだ
自分も
気をつけようと
思ったところが
いいね
子どもたちの作文を集めて
クラスの「論語集」を作っても
いいですね
論語がさらに
身近に感じられる
ことでしょう
つづく